



鳥追船



特別
子 12
3643
16(10)



鳥居

男内

か様よ作者ハ丸列蔭ノ四比



殿乃御内ハ也射と申者あう倭色

じ日暮れ里と申ハあみの大川流を来ハ

湖水よつてきりげ湖も村多のうてう

らむらひの田もさうさう間毎年くる(長)船

ま、らう、田、修、れ、身、ま、ち、ら、務、ら、ま、う、の



頼ちよの日暮ぬは新報の事者よ
 里御社京うへんが、内留守りみ乃
 此方と花あはれと申たさあひの人者
 ば厚くばまうらう鳥にりまうもむ若
 もあひ同花わの殿と座申田はこれ
 考成にち務中と申さるに案内
 中山だ也射が参りて、だ也射六
 ンテ女

何のあま唯と多う持りて、はしんぬは
 秋乃此御下向者へまうらふ
 いたたたつらうと申す作強ん
 引まの唯今しある事御若縁り
 何れは商年そのわづら船よ交は鳥
 おひきうむらうあはれくは花若殿は
 出らつらうとあはれ御あまひ人

鳥是

うだ振の事申さむ為よしありて
山ニテ何と花ありよ田つらぬる所ありと
中う花つらぬるとまあたれどもなを
射ゼラぐ為よし主めくつらぬると
身あへあくと申さむがたぬたサ内射ゼラ預
情ナサケありと花はあきれ男何となを射ゼラの
情ありと者と信くつらぬるとまありて

笑キコしるを作へぬらぬあまもく申
ま立ゴ牛ジラ日ニチ百ヒヤク日ニチ乃ナ一イチ年ネン申シ奉ホウ申シと
は留守とハヤきととそふツナツ子コ細ホ
里ロ拔ハク持チ一イチヤヤとらたサ内射ゼラ情ナサケありと
あアとト不フ給キョウをヲ成セイわワるルとト花ハありと
一イチあアてテ山ニテ花ハありと殿ド出デ者シャありと
内射ゼラありとイツツカカタタ

あま

三

しゝいさく月ねまの花若やう
ゆく甲斐もあくあうねさうあ
まーやあうがなうしたおまは
きつてもうあひがねよのさうさ
まもよなきさう露ちげまさく
稲穂まおるさうささくさく
まらららあさう戸さあや子

あさく安塔一花悦乃眉と團
唯しおまよあはがさうさ
あさく安塔一花悦乃眉と團
十ヶ年よ知らさうはさう自物
梅もそれう自物乃事カアル
是の九列日らうねさうあて作
あさく安塔一花悦乃眉と團
あさく安塔一花悦乃眉と團

おどろく夏乃女よ 比 けろろわぶの私
うつらふ 夏 穿れ女のさうら
そとくよあはれしくがらうさまたの
水鳥乃うこ 孫定めぬは枕 ち
るびく秋乃田のぼるこはまきしてうこ
志の三面白乃身若風情やびてあち
秋雨のちわらわらうまきくさよ

舟り粉て袖も年よ 一お妻がひ
もよおとあはれりぐくのうらな
頼三うれく けらあきも殿この
秋乃比下 己給あつらふあやう
あきそれもあやをいあはれ打るあま
はたふらうもあまの三あはたは花若
果報乃あつらうさうさうあはれ

鳥屋

けの馬をひ申てるそ
あも

家人のきよもあそふまじりて

はらまう露乃 たくて乃お田も

うらまひまづつ秋乃ひらきよ

おののう毎こまじりて 思ひくれ

もやあ あれくみちも けり

毎も 上は ちうの報く ちうのまき

とめがよきとたそくそ人相づき
報ちううくそ風乃うう屋ゆまの
た若よりあるまもあへんく水鳥
やせめてあま時ハうもみれ
うらまひまづつ秋乃ひらきよ
はらまう露乃 たくて乃お田も
うらまひまづつ秋乃ひらきよ

あつれとそよよもいふ天乃海に救きて
思ひ乱まて我心をさるも海よあ
朝乃前をう拍さるも入やまて後
ちうつや家と離して三女の月の
日 海なるの敷くくもまらねと雲の
よの心乃周のまをわむと次つくむら
鳥若くはる及の雲よ立らうぬま
ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア

あつれとそよよもいふ天乃海に救きて
思ひ乱まて我心をさるも海よあ
朝乃前をう拍さるも入やまて後
ちうつや家と離して三女の月の
日 海なるの敷くくもまらねと雲の
よの心乃周のまをわむと次つくむら
鳥若くはる及の雲よ立らうぬま
ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア
男 子
あつれとそよよもいふ天乃海に救きて
思ひ乱まて我心をさるも海よあ
朝乃前をう拍さるも入やまて後
ちうつや家と離して三女の月の
日 海なるの敷くくもまらねと雲の
よの心乃周のまをわむと次つくむら
鳥若くはる及の雲よ立らうぬま
ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア

面白ふ作は中々好しも入るる
女は心細くも思ふ事あり
母は心細くも思ふ事あり
つらふもあつてだに封々母あり
なほ心細くも思ふ事あり
様入るるつらふもあつてだに封々母あり
者か ^{コキ}あつ母ありもあつてだに封々母あり

男

見へ甲く不審也とて漕づつ入る
身は舟に心細くも思ふ事あり
是日らへ殿ありも思ふ事あり
やん心封あつてあつてあつて
育つ ^{コキ}あつてあつてあつて
はらへ心封あつてあつてあつて
御めし入る ^{コキ}あつてあつてあつて

コキ

コキ

コキ

コキ

まゝとてしるるぞ 又も在京と
とまゝに侍も作の頼こころたに
射此の田乃しるるぞあへはな
ハ親子もろともよ 我屋のしぬのたま
まゝとてしるるぞあへはな
捨舟子鶏報もろともよ 我屋のしぬのたま
干乃浪浅もろともよ 我屋のしぬのたま

甲子

を悟道乃の事。それら取れ子ハ
胎心うて孫ごころとまきせ家めく
親のこころもまゝとてしるるぞあへはな
歳よあまうばらとてしるるぞあへはな
唯是と申そし果る親は在るぞあへはな
るれつとてしるるぞあへはな
今たは射を射くもろともよ 我屋のしぬのたま

そいふもくありけりいかにたぬ射の
あはれしきなる者おはしとあり
とよ射ししりそむも有りしり
はる國よ下るあはれぬある恩賞
とよしなる都りて方境乃甲難も
ちくまの主人あつはきて下入
はるなるの強きし者たつてあはれい

まぬそ ^{テ上} かのろ ^{トガ} 答もはら ^ト ち ^ト 唯
久くは捨 ^{ステ} てる ^ト 花 ^ト 乃 ^ト 父 ^ト 乃 ^ト 答 ^ト
そ ^ト なる ^ト あり ^ト ち ^ト 仙 ^ト 家 ^ト 入 ^ト て ^ト 白 ^ト
の ^ト 客 ^ト あり ^ト ち ^ト なる ^ト 在 ^ト 娘 ^ト 乃 ^ト 帰 ^ト つ ^ト ぐ ^ト 日
の ^ト 中 ^ト なる ^ト 子 ^ト あり ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト
て ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト
て ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト
て ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト ち ^ト なる ^ト

三十三

十三又

東京觀世清孝

梅若實

京都斤山晋三

浅井喜次郎

林喜左門

菌久左門

浅野繁之助

林田喜代造

武田藤馬

藤木保列

大江信之助

井上勝太郎

立花傳三

三宅作十郎

奥田彦登門

馬淵太右門

大坂生一丸兵衛

大西濫一郎

橋岡忠三郎

岡田泰造

新西市兵衛

大津原五郎

草川愛助

岩佐富三郎

伏見田中仁助

諸

國

賣

弘

所

書

肆

東京堀崎堀井吳三郎

松本善助

越後高岡清水庄平

迎長濱吉田作平

伊奈松澤田玉井新次郎

東海三村上郎兵衛

四條町大谷勘兵衛

三條寺町杉本甚助

日川町福井源次郎

五條高倉澤田友立郎

花町豐永田調兵衛

寺町素藤井佐兵衛

日綿小路山田茂助

日佛小路北川甚七

古門前澤田吉右門

